千歳市と
次世代半導体プロジェクト



2026.11

千歳市

１　千歳市について

千歳市の人口・特徴



主な特徴

- 人口は **約97,000人**
- **全道一若いまち**（市）
- 通勤1h圏内の労働力は**170万人超**
- **技術系大学**などが近郊に集中
- **空・陸・海**の**交通拠点**

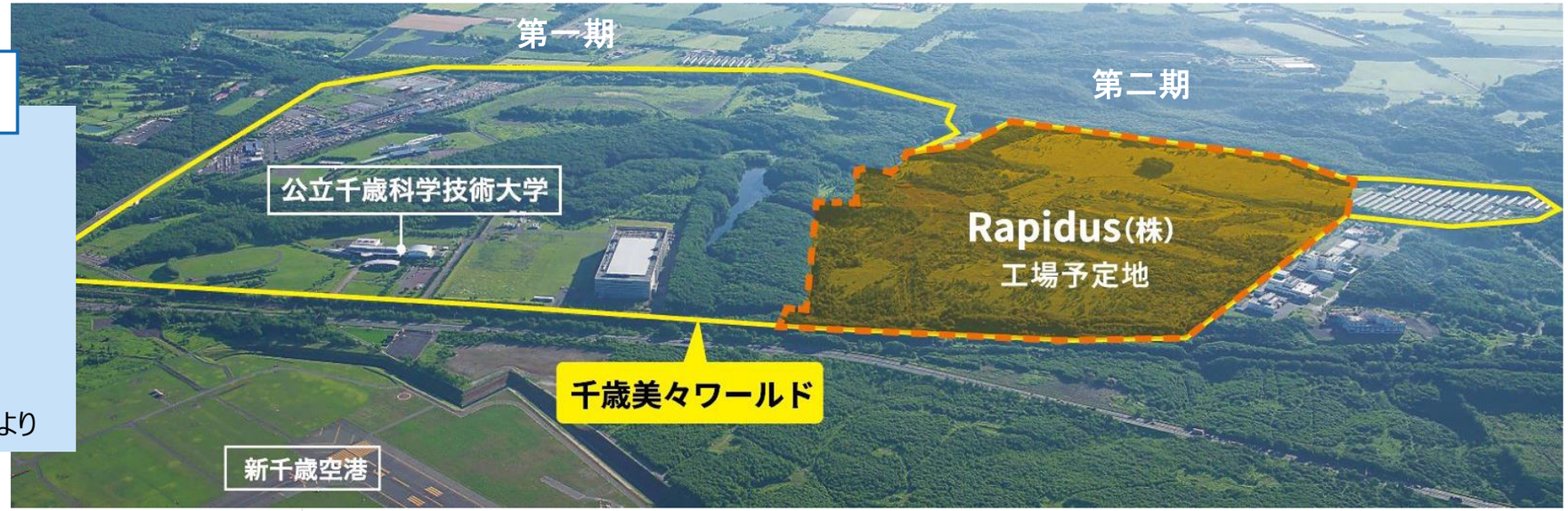
2　Rapidus社の立地

千歳美々ワールド 〔平成6（1994）年造成開始〕

R5.2 Rapidus社 立地表明

- 広大な土地
- 豊富なエネルギー
- 豊かな自然環境
- 魅力的な場所

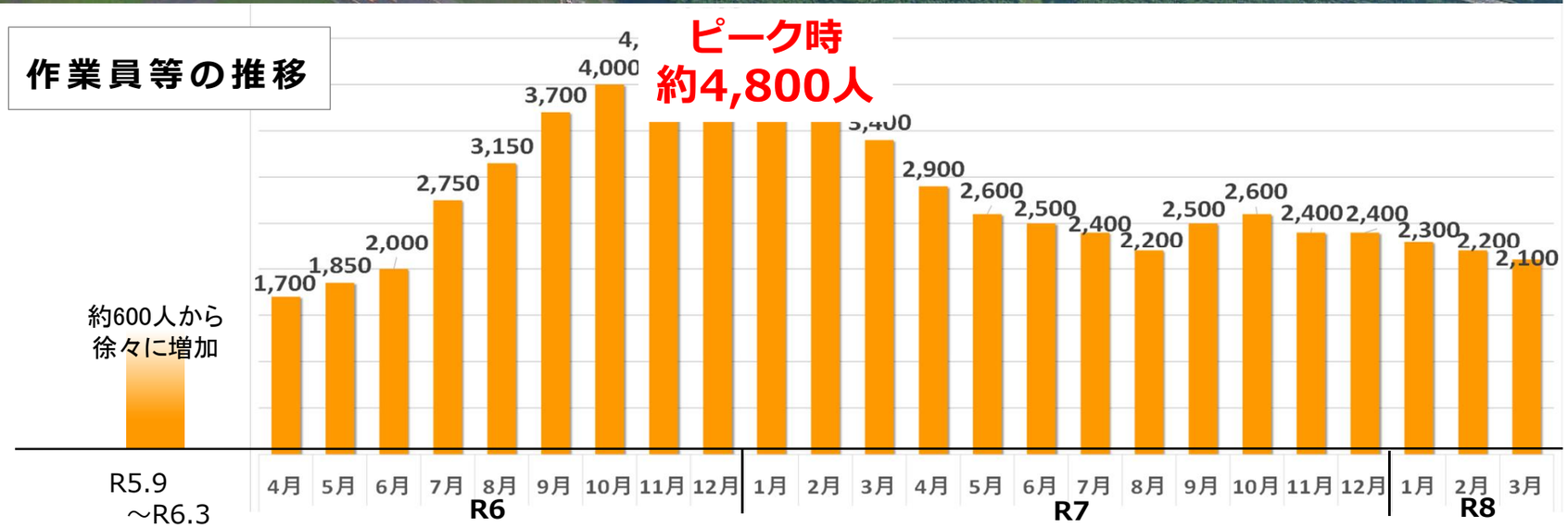
※Rapidus社HPより



＜工事建設経過＞

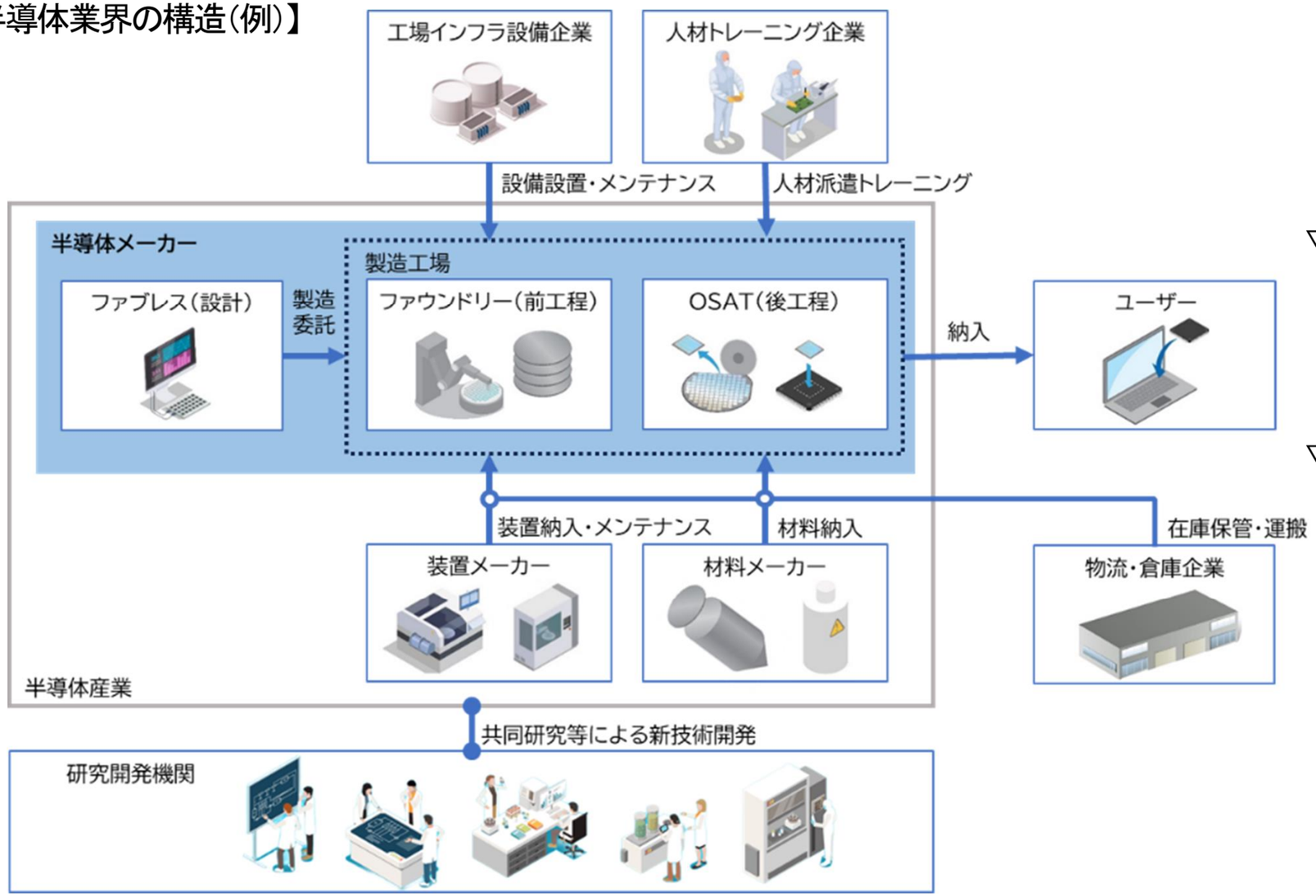
R5.2	立地表明
6	伐採・着工
9	着工
R7.4	パイロットライン 稼働
R8.3	解析センター 竣工

作業員等の推移



足元の集積状況

【半導体業界の構造（例）】



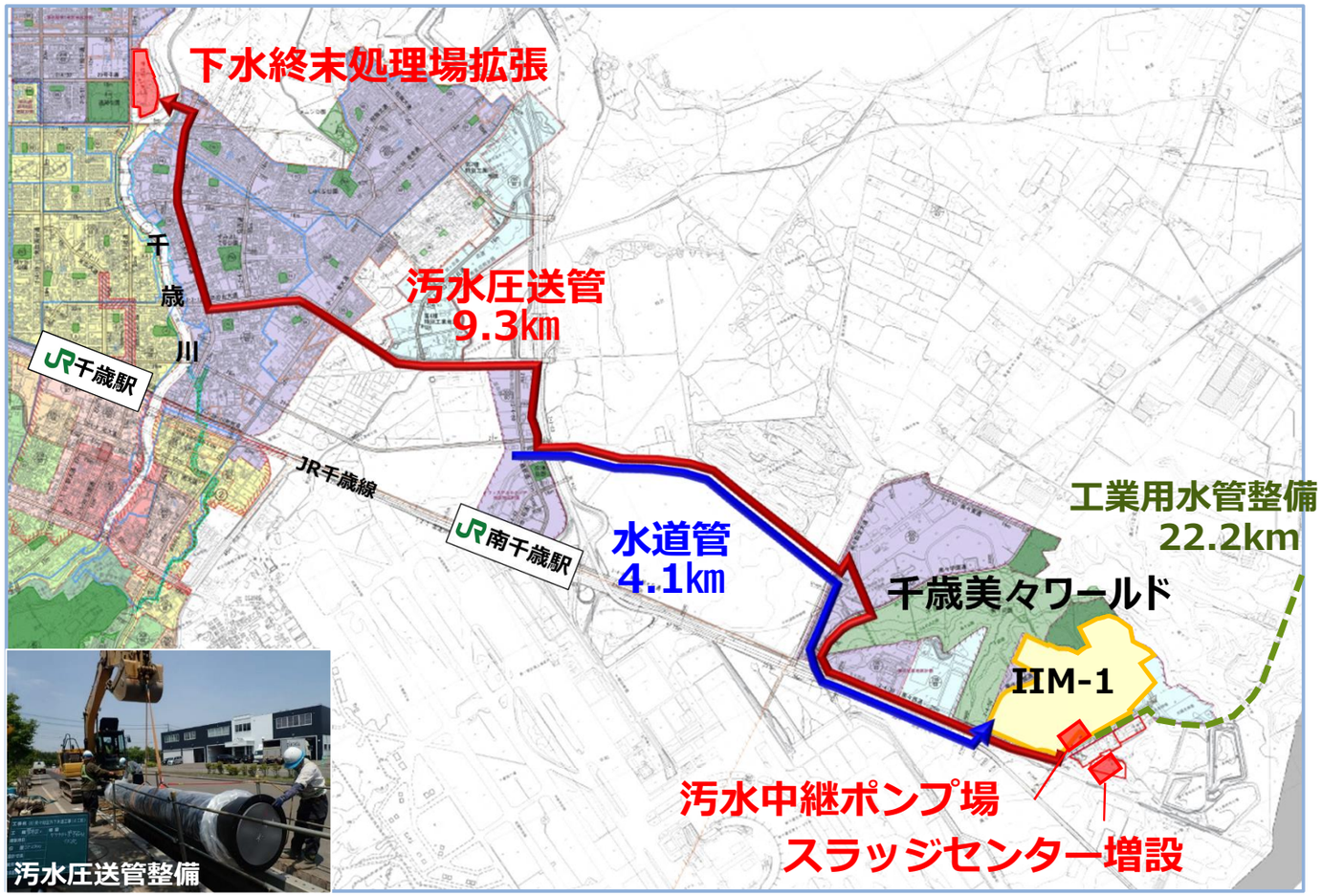
▽ Rapidus社の事業進捗に合わせて関連企業の集積が進む

▽ 量産（R7)以降に進出を検討する企業も多数

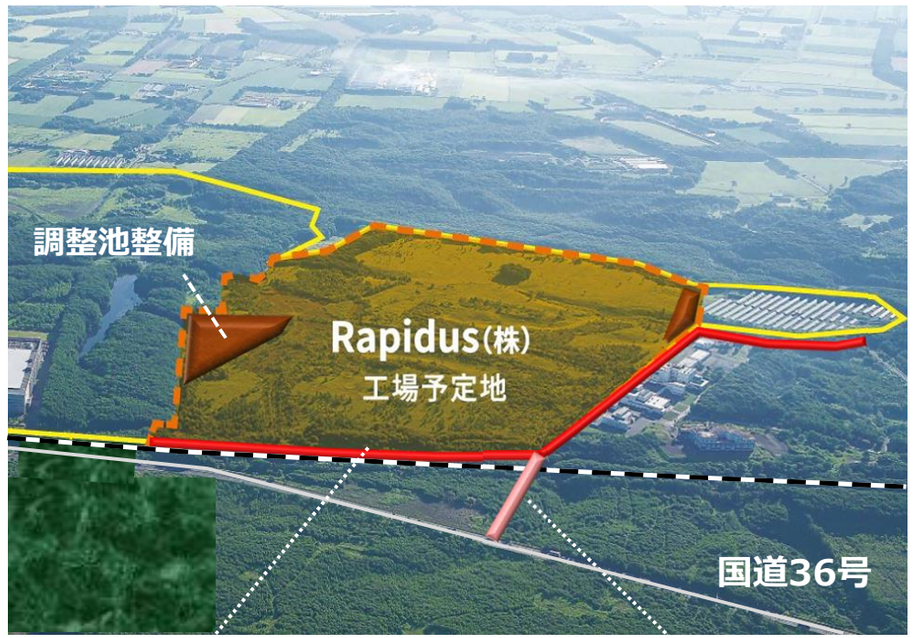
３　受入環境整備への取組

工場に必要なインフラ整備

上下水道等



道路・橋梁・調整池



美々西・南通



美々南通　跨線橋



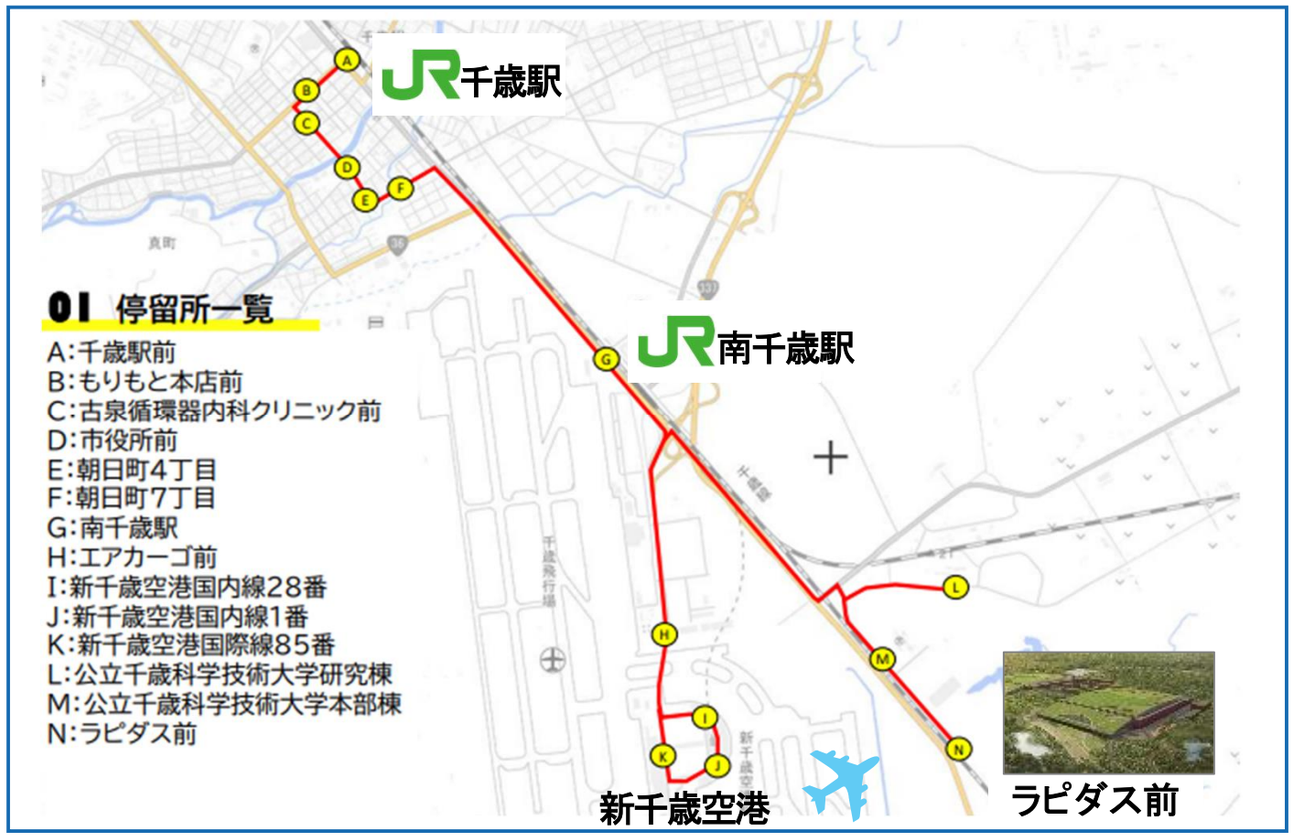
交通アクセス向上

バス路線の開設（R8.4.1～）、増便･早朝･深夜帯の拡大（R8.10.1～）

『空港』『JR駅』『ラピダスIIM』 を結ぶ **新たなバス路線** 開設

便数が73便 ➡ **111便**に大幅増

深夜･早朝も走ります **6時台～23時台**





工業団地の状況

- ◆「空・陸・海」の抜群の交通アクセス
- ◆ 新千歳空港から10km圏内に
  - ・工業団地　**11** か所
  - ・立地企業数　**290社** 超

【電子部品・デバイス】

デンソー北海道、ミツミ電機、パナソニック、
SUMCO、セイコーエプソン、ダイナックス　等

【食品、飲料】

キリンビール、カルビー、キッコーマン、
札幌日清、フジッコ　等

【医薬品】

日本血液製剤機構、浜理PFST　等

【機械、化学、運輸、物流 等】

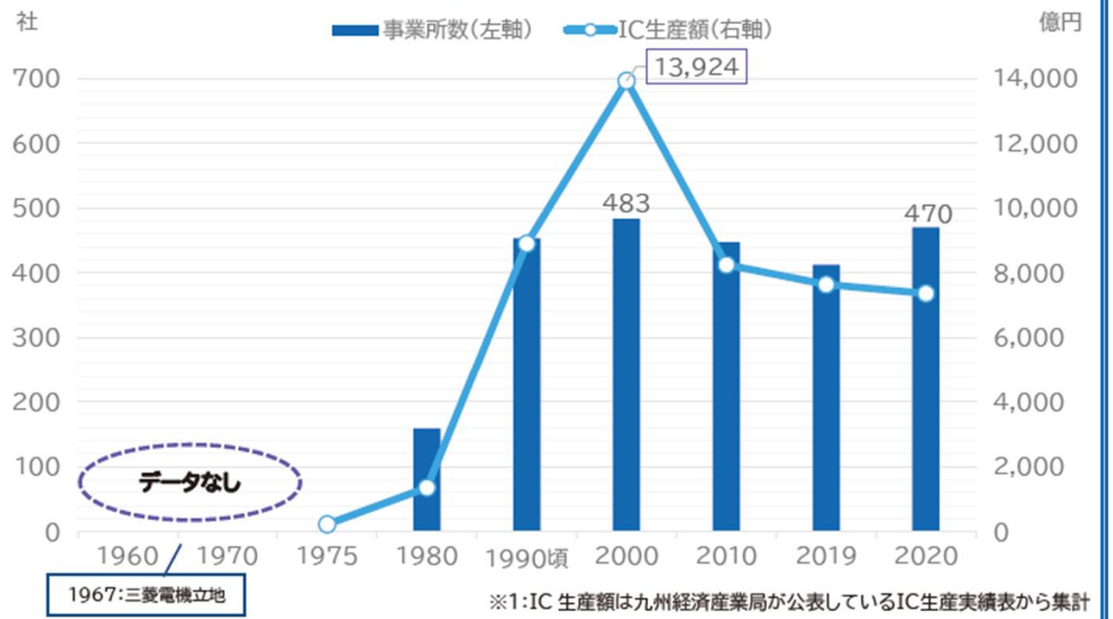
分譲率　約95%



半導体産業の集積事例

◆国内（九州地域）

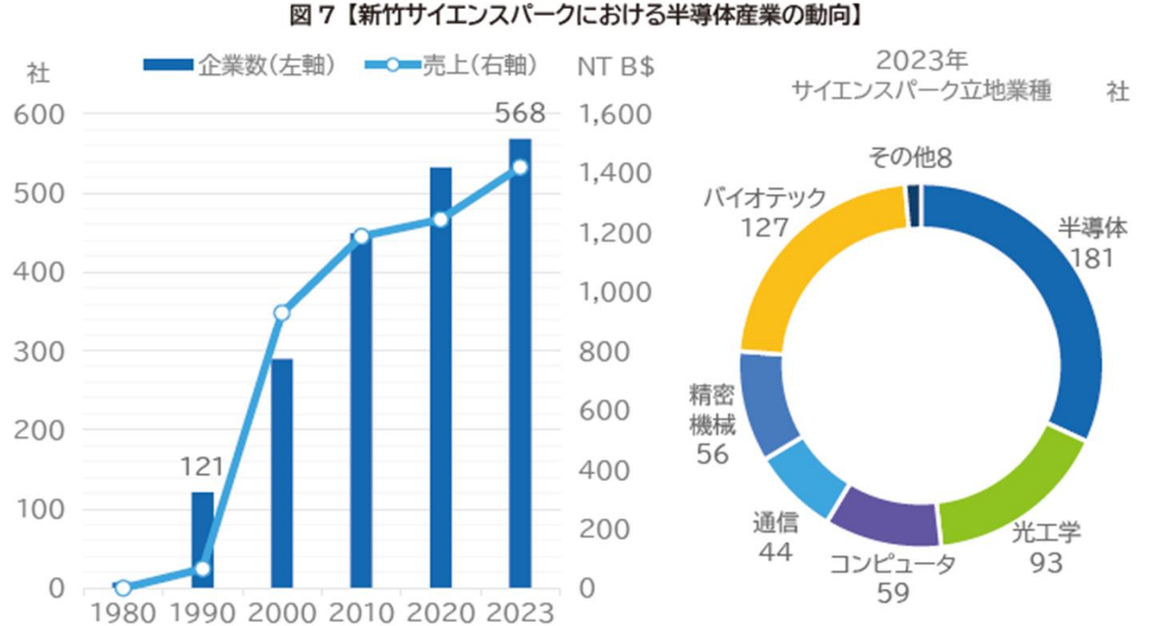
図 6【九州地域における半導体産業の動向】



※1:IC 生産額は九州経済産業局が公表しているIC生産実績表から集計
※2:事業所数は 1980 年から 2010 年までは工業統計、2019 年から 2020 年は経済センサスから集計
※3:1990 年は工業統計未実施のため、1992 年の数値で集計
※4:半導体産業とは半導体製造装置製造業と電子部品・デバイス・電子回路製造業の合計
※5:1980 年から 2020 年までに日本標準産業分類の改定が複数回あるため集計業種は完全には一致していない
※6:本市作成

◆海外（台湾 新竹市）

図 7【新竹サイエンスパークにおける半導体産業の動向】



※:Hsinchu Science Park annual report、NSTC Statics Database から集計して本市作成

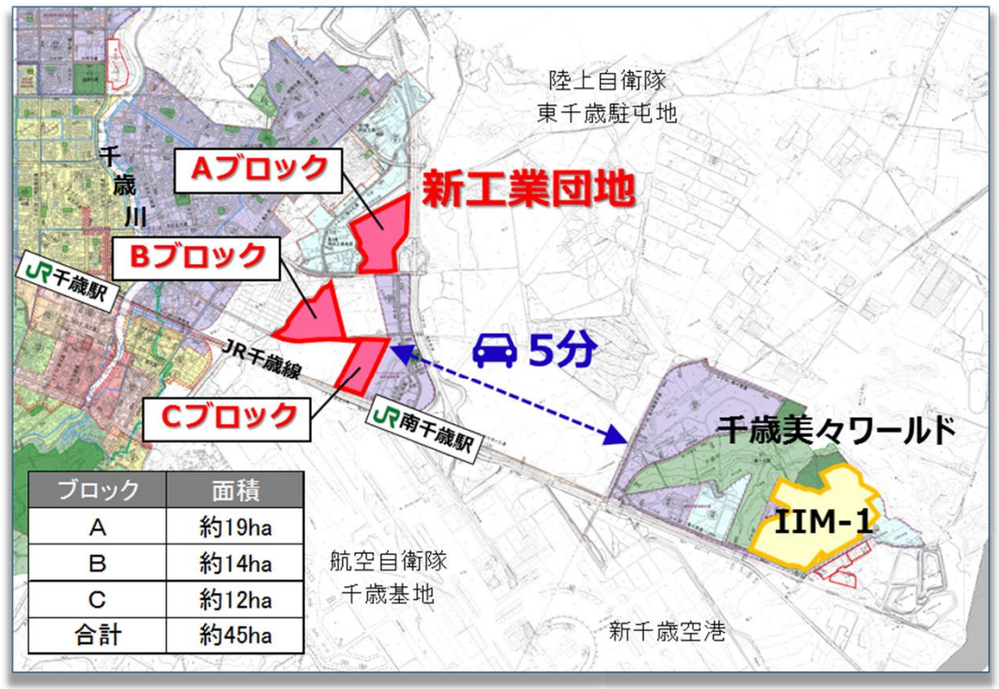
新たな工業団地の造成

新たな工業団地の必要性

〇産業集積調査 等（令和５年度～令和７年度）
・３９社が千歳市に立地の可能性あり
※工場・倉庫・物流施設のみ

〇既存工業団地の状況
・分譲率　約９５％

量産以降の受入体制強化のため、新たな工業団地が必要



開発位置

〇千歳市柏台　約４５ｈａ　（内、国有地 約４４ｈａ）
・千歳市第３期都市計画マスタープランで「一般工業地」として位置付け
・日の出ランプ・ＪＲ南千歳駅に近接、新千歳空港から車で１０分
・千歳美々ワールドから車で５分

開発手法

〇土地区画整理事業（個人施行）
・スケジュールや早期の分譲

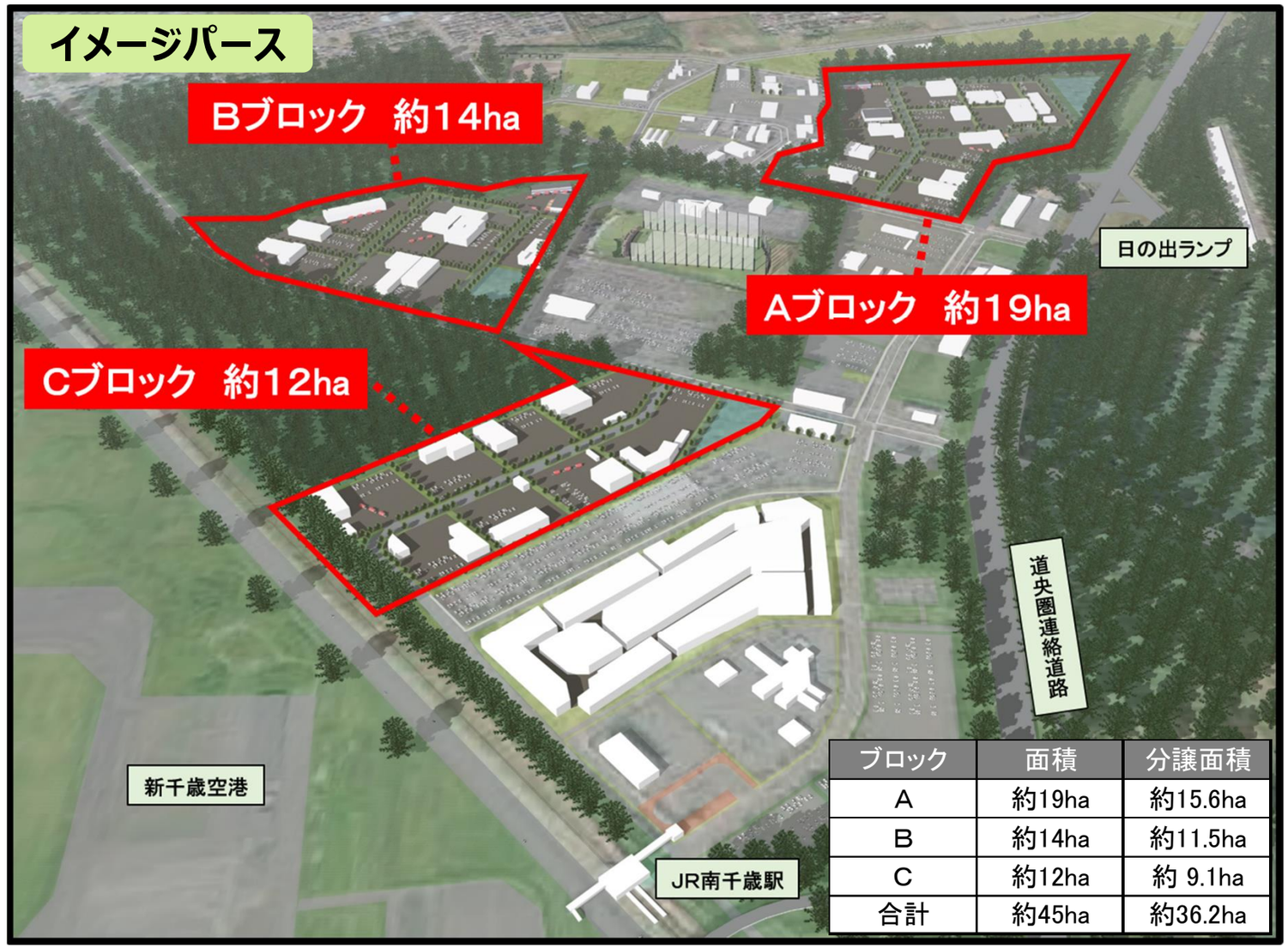
新たな工業団地の造成

整備内容

- 都市計画道路（Cブロック）
- 区画道路（A, Bブロック）
- 公共緑地
- 雨水調整池
- 上水道、下水道
- 宅地造成

事業スケジュール

	令和7年度（2025）	令和8年度（2026）	令和9年度（2027）	令和10年度（2028）	令和11年度（2029）
用地取得	用地取得協議		用地取得		
都市計画区画整理		都市計画決定	区画整理事業認可		
調査設計	基本設計 測量調査等	実施設計（Cブロック） 埋蔵文化財発掘調査 等	※A, Bブロックも順次実施		
造成工事			造成工事（Cブロック）	※A, Bブロックも順次実施	
分　譲			予約分譲受付開始	Cブロックから分譲開始予定	



ブロック	面積	分譲面積
A	約19ha	約15.6ha
B	約14ha	約11.5ha
C	約12ha	約 9.1ha
合計	約45ha	約36.2ha

４　千歳市が目指すこと

千歳市における半導体産業集積の成長性

「千歳市将来ビジョン」（R7.2策定）で示した４つのポテンシャル



『千歳市将来ビジョン』
（R7.2策定）

POTENTIAL1 多様なファウンドリーの誘致／立地

複数の半導体製造工場が**近接立地し**、さらに材料メーカー、装置メーカー等のサプライヤーも集積することで**サプライチェーンが強固に形成**。 工場間のシナジー最大化を期待。

POTENTIAL2 ファブレスの誘致／育成

半導体構造の複雑化により、**ファウンドリーとの連携が進むファブレス**に着目。
Rapidus社と連携する企業のほか、本市発の設計ベンチャー企業の育成・輩出も重要。

POTENTIAL3 研究開発機関の拠点化

最先端半導体においては常に技術開発が必要。Rapidus社を中心に**国内外企業の研究開発機能の集積**が進んでいく可能性。本市がわが国における先端半導体研究の中心的なポジションへ。

POTENTIAL4 光電融合技術を用いた新産業の拠点化

光電融合技術は、最先端を実現するキーテクノロジー。次世代半導体の製造が行われる本市で光電融合技術の研究開発が行われ、テクノロジーが**様々な分野に実装**されることを期待。

先端半導体研究開発拠点の形成

Chitose Technology Frontier（CTF）

Rapidus社に加え、産総研、LSTC（最先端半導体技術センター）など、世界水準の製造・研究開発機関が集積
先端半導体研究開発拠点の形成を目指す



掲載のイメージは参考であり、将来の整備内容を確約するものではありません。